

# 教員の経験年数に応じた 心理的安全性を高める教育実践研究

教育実践高度化専攻 学校マネジメントコース

松宮 有里

本研究は、若手教員の離職・休職の増加やミドルリーダーへの期待の高まりを背景に、教員の経験年数に応じた心理的安全性を高める手立てを検証したものである。

実態調査では、心理的安全性を阻害する対人関係リスク（無知、無能、ネガティブな人、邪魔をする人だと思われる不安）をアンケートにより調査した。その結果、若手は「無知・無能」と思われる不安を、ミドルは若手への指摘による「ネガティブな人だと思われる」不安を強く抱いていることが明らかになった。これに基づき、学年の枠を超えた「ピア・グループ・メンタリング」と、資質能力を可視化する「自己調整シート」を用いた研修を実践した。

実践の結果、若手の「無能」と思われる不安やベテランの「邪魔をしている不安」に改善が見られた。ミドルリーダーが自らの弱みを開示し、心理的安全性を高める役割を意識することが、若手の評価されることに対する懸念を自己調整の意欲へと変容させ、組織的な対話を促進する上で極めて有効であることを実証した。